薬学系人材養成の在り方に関する検討会（第２回）委員からの主な意見

薬学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂について

〇薬学生が学習すべきこと

・プロフェッショナリズムというキーワードが入ることは大変すばらしいと思う。

・薬剤師の能力の基本体系を実現するために B(社会と薬学)、E（医療薬学）の領域の設定について見直すことが重要。B（社会と薬学）からＥ （医療薬学）があって、最終的にＦ（薬学臨床）でどう行動変化に結びつくのかが重要。大学教育の中でも、世間のニーズに応えるためには、どのような知識の取得が必要か考え、知識を活用することが薬剤師の現場の業務に直接関係してくる。

・サイエンスは発達していくので、各大学が責任を持って、教育を行わなければいけない。今ある知識を丸暗記するようなカリキュラムにしてはいけない。医療、研究、臨床は切り離せるものではなく、臨床をやっていても、研究の要素がないと課題解決ができないことはたくさんある。一方、研究も臨床のことを知らないと、ニーズに即した臨床開発はできない。薬学部はその両方を学ぶところであり、今回のカリキュラムでそれが体現できれば非常に良い。

・自分達が行う研究に対する倫理というところも必要になってくると思うので、そこを何らかの形で学生教育の中に入れていただきたい。

〇大学の自由度、スリム化

・大学独自のカリキュラムが作れるということが大切。あくまでもコアなカリキュラムであって、それ以外のところは、どのような人材を育成するのか各大学でカリキュラムを設定すればいい。大学がそれぞれのポリシーに従って設定すればいいと考える。

・薬剤師業務以外の職域でどのような薬剤師が活躍できるかも大事なことであり、大学独自のカリキュラムの中でそういった特色を出していくことが必要。

・自由度があり、さらに高度なところにはどういうモデルがあるかというのを提示していただけるようになると、さらに能力の高い学生、学力の高い学生をエンカレッジするようなカリキュラムになるのではないか。

・コアカリにたくさん記載されていることが自分達の領域の影響力の大きさを示すというような錯覚が起こりがちなので、どう防ぐかということを検討いただきたい。スリム化できているところほど成熟した教育ができて、自由度が高いという価値を共有できるということが大事ではないか。

〇職域、人材育成

・製薬メーカー、公衆衛生及び地方公共団体等、様々な職種に就職しているということをコアカリの中に

含められないかと思う。

・将来的に薬剤師が余ってしまうということが懸念されていて、特にこれからAI等が進んでいったときに、調剤だけでは薬剤師の仕事として非常に貧弱になってしまうと思われる。例えば、将来研究者となって、大学の先生になる、製薬会社に勤める、創薬や医療機器等の開発に関わる等の職域に進む人が少なくなってしまっていることを非常に懸念している。基礎研究を継続するという道もあるということを何らかの形で示していただきたい。

・現状の知識偏重の薬学教育というのは、「現在の知識を伝える」ということで、「社会へ対応する人材を育てるということ」と矛盾があるように感じる。新しいことを体験して喜びを感じると、さらに進めていこうか、大学院にも行こうかということを考えると思う。全ての項目の中に何かの形で「研究」という項目を入れていただくとよい。

・医療人の育成を大きな目標として、各大学で「企業人を目指す学生」、「研究者を目指す学生」等、目指す学生像は大学のレベルで決めていけばいいと考える。

〇その他

・医学部、歯学部と横並びであるということがはっきりしたことは大変喜ばしいこと。

薬学教育モデル・コア・カリキュラム キャッチフレーズについて

・医歯薬共通ということについて、患者はチームで見るためその部分をこういう形で、コアカリのキャッチフレーズとするのはいいことである。

・医療人というスタンスを学部、ボーダーレスで持っていくということは重要であるため、案に賛成。

・非常にバランスがとれていいのではないか。看護を代表できる立場ではないが、将来を見据えたときにバランスがよいものであると感じているため、賛成。